

# 令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和5年5月24日  
千葉県農林総合研究センター長

## インパチェンス類べと病の発生について

1 病害名：インパチェンス類べと病

2 病原菌：*Plasmopara obducens*

3 作物名：インパチェンス

4 発生経過

- (1) 令和5年4月上旬に、県内で生産されたインパチェンスで、葉が黄化して落葉（写真1）、葉裏に白いかびが生じる症状（写真2）が発生した。令和5年5月上旬に、生産者の要請を受けた管轄農業事務所が本症状を確認し、千葉県農林総合研究センターに診断を依頼した。
- (2) 同センター病理昆虫研究室で診断した結果、病原菌の形態的特徴（写真3）から、インパチェンス類べと病と診断した。
- (3) 本病は、平成22年6月に国内で初めて確認されており、平成24年に島根県、平成26年に神奈川県、平成28年に広島県、令和2年に高知県から特殊報が発表されているが、本県での発生確認は初めてである。

5 病徴と病原菌

- (1) 葉が黄化し、葉裏に白色のかびを生じる。病徴が進展すると、落葉、枯死に至る。
- (2) 病原菌は葉裏の気孔から分生子柄を伸長し、樹状に分岐後、その先端部に卵型の分生子を形成する。
- (3) 宿主植物はインパチェンス類をはじめとするツリフネソウ属の植物とされる。

6 防除対策

- (1) 本病は分生子により空気伝染するため、罹病株は速やかにほ場外へ持ち出し、土中に埋却処理する。
- (2) 葉が濡れていると感染を助長するため、頭上かん水は避ける。
- (3) 以下の表を参考に薬剤防除する。

農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準を守り適正に使用する。

表 インパチェンスのべと病に登録のある薬剤（令和5年5月24日現在）

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	10aあたり 使用量	希釈倍数	使用方法
オロンディスウルトラSC	発病前～ 発病初期	2回以内	100～200L	2000～3000倍	散布



写真1 葉の黄化症状



写真2 葉裏に生じた白色のかび



写真3 病原菌

- ・病虫害発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・特殊報とは県内での病虫害の初発見や従来と異なる発生状況が見られた場合に出す情報です

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問い合わせ先

**千葉県農林総合研究センター病虫害防除課**

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)

